

大通り商店街 協同組合 20年の歩み

今年で設立20周年の節目を迎えた置戸町大通り商店街協同組合。同組合は、街並み整備事業・大通り商店街近代化事業のスタートにあたり、平成4年12月に組織されました。市街地を貫く道道の拡幅や流雪溝の設置事業、下水道事業、置戸駅舎の改築と駅周辺の整備など、置戸町有史以来最大ともいえる社会資本整備事業により、私たちの生活は一変しました。大通り商店街協同組合誕生から20年。今や置戸の顔へと生まれ変わった大通り商店街の歩みや、喜びの記念祝賀会の様子などについて紹介します。

経過－大通り商店街活性化に向けて－

街並み整備・大通り商店街近代化への取り組みは、平成元年に中央公民館で開催された「おけと暮らしのデザイン広場」が契機となりました。この中で、工芸的なものづくりの延長線上から機能第一主義のまちづくりの反省が出され、ハード面を含めいろいろな観点からこれからの置戸市街をどのようにデザインしていくかの話し合いが始まりました。

翌年、商工会で「街並み整備推進委員会」、関係機関による「置戸駅舎改築懇談会」が組織され、クラフトパーク計画構想とあわせて商店街活性化に向けた将来像などの検討をスタート。平成3年、役場関係課による「街並み再生プロジェクト」が組織され、総合的なまちづくり計画の検討が始ま

り、前年結成の街並み整備推進委員会との共同検討も行われるようになりました。平成4年に「置戸町大通り商店街協同組合」が結成。また、道道改良事業に向けての「北光置戸線マイウェイアワーロード連絡調整会議」が開催され、事業実施の取り組みが本格化したことから、翌年、役場内に「街並み整備推進室」が設置され、難しい土地の買収や移転問題への取り組みが開始される一方、平成6年から道道の改良事業と大通り商店街近代化事業が同時進行することになりました。

平成10年に共同施設事業としてのポケットパーク新設を最後に、「おけと暮らしのデザイン広場」から出発した大通り商店街近代化事業は10年の歳月をかけて完成。また、道道拡幅、下水道、流雪溝、無電柱化工事、駅舎等一連の街並み整備事業

は平成14年に完成の記念式典を実施しています。

構想から約10年。置戸市街をまったく一新させた街並み整備事業・大通り近代化事業は、総事業費186億円とも推計される、先にはもちろん後にもおそくないであろう画期的な大事業となりました。

